調査レポート④　研究成果・実用化

（JAIST　010）

持続可能な地域観光のデザイン

北陸先端科学技術大学院大学　知識科学研究科
敷田　麻実　教授

研究分野

観光　地域資源　持続可能性

観光はレジャー、つまり「楽しみ」だと思われ、科学や計画とはほど遠い分野だと思われてきた。しかし、海外からのインバウンド観光客2000万人の時代に入って、もはや徒手空拳ではやっていけない。今こそ、地域は観光戦略を持って観光をデザインする時代に入った。では魅力ある観光地や観光を地域で持続するために「研究」で支援できることは何か?

地域の人口減少や高齢化対策の切り札として「観光まちづくり」に対する期待は大きい。それは北陸新幹線による観光客増加に加えて、海外インバウンド客が急増しているからだ。今までの対策、例えば、企業や工場の誘致も確かに一定の効果はあったが、依然として人口が減少し、地域の活気も低下している現状では、観光による持続可能な地域の実現は現実味を帯びる。

観光はその点で、地域資源をうまく活用して、来訪者が地域で消費することで地域経済が潤うという、わかりやすい構図で地域づくりに対する効果を説明できる。特に、もともと地域にある資源をうまく活用することで、投資効率がよい（つまり初期投資が少ない）地域戦略だと考えられている。

しかし、それが成立するには条件があるはずだ。その条件とは、規模が拡大した時にも投資効率を維持できるかと、この効果を一定期間持続できるか、つまり持続可能であるかということである。そこに研究や研究に基づくイノベーションの必要性が生じる。

地域や観光事業者が、一定規模で観光を経営や振興するために、どのような仕組みを設計するかは、自治体でも個別の企業単位でも重要な選択である。特に現在は、地域の観光を取り巻く状況が急速に変化し、インバウンド拡大、民泊推進、ネットによる旅行手配などが進んでおり、小手先の経営指導や観光振興プランでは十分ではない。

敷田研究室では、各自治体や企業の持つ「資源」に焦点を当て、その資源価値を高める研究とその実現のための組織や制度のデザイン、さらには人材育成システムの提案などに努めるとともに、観光におけるイノベーションを基にした、持続可能な地域づくりも、ファシリテート可能である。

2020年に東京はオリンピック一色に染まるが、地方の地域も独自の輝きを維持するために、プレイスブランディングとそれを支える高度職業人材の育成をはじめとした「地域力回復プラン」作成を進める必要があり、観光系企業や地域系コンサルタント、観光協会と大学などの研究組織の連携が強く求められている。

応用分野

プレイスブランディング、観光地域プラン・観光戦略策定、組織ファシリテーション

連携を希望する企業の業種・技術

地域系コンサルタント、観光系企業、地域NPO、地域再生をめざす自治体（地域最大のサービス主体）

『研究開発』と『事業化』をサポートする

i—BIRD アイ・バード

いしかわ大学連携インキュベータ（i—BIRD）は、石川県立大学・金沢大学・金沢工業大学・北陸先端科学技術大学院大学等が有する研究成果の活用や大学との共同研究展開により、新事業創出を目指す皆様の活動を支援する施設です。当施設の様々な取り組み内容や入居者の事業活動について、ご紹介します。

Vol.16
活動のご紹介

石川県観光PR
マスコットキャラクター
ひゃくまんさん

髭は輪島塗、眉・全身には金箔が施され、加賀友禅柄の草花や九谷五彩の色彩を全身に取り入れ、石川県の伝統文化をぎゅっと凝縮したキャラクターです。

主な内容

1. 入居者の紹介
2. Matching HUB kanazawa 2015 Autumn
3. 施設概要等
4. i-BIRDの活動
5. 産学連携の紹介